最優秀賞

ｔｖｋかながわＭＩＲＡＩ賞

かんちがい

秦野市立本町中学校
一年　森　玲亜

私は、小さい頃、障がいを持っている人に対して、「怖い」という一方的な感情を抱いていました。おそらく、このような感情を抱いていたり、ただ漠然と「かわいそう」と感じていたりする人は少なくないと思います。私が「怖い」と感じていたその理由は、特にこれと言ったこともなく、今思えば勝手な思い込みでした。

私が「怖い」と感じていたことについて考えてみると二つの理由があるな、と考えました。一つ目は、見た目です。手足にマヒがあると、動作がぎこちなく、恐怖を感じさせるアニメやホラー映画のような動きに似ていたからです。二つ目は、私がびっくりしてしまうような大きな音を立てたり、声を上げたりしていたからです。どちらの場面においても、私はその

場に居合わせたときにびっくりした表情をしたと同時に相手に対して嫌な表情を見せてしまったかもしれません。そして、翌日以降は同じ場面にそうぐうしないようにさけていることもありました。

私が幼稚園生のとき、私の祖母は股関節がすり減っていて、足が思うように動きませんでした。私自身はあまり記憶にありませんが、母は写真を見せながらこのような話をしてくれました。

「ばーばが足を引きずって歩いているとき、玲亜が自然と手を繋ぎに行ったり、背中を押したりしてあげていたんだよ。」

孫として当然のことをしているだけ。そう思っていましたが、動作がぎこちない人に対して「怖い」と感じていることに対してハッとしました。足を引きずっている祖母も、手足にマヒがある人も、何も変わらず同じであることに気がつきました。と同時に生きているということについて私自身も変わらないのだと気づきました。

私の母は特別支援学校で働いています。母の受け持つ生徒も大きな声を出したり、時には手を出したりするそうです。母は、

「どの生徒でも心が優しい子なんだよ。」

と腕に傷を付けて帰ってきた日も話しています。確かに、今まで関わったことのある、障がいのある友だちも、心優しい思いやりを持っているなと改めて気づきました。

私の父は特別支援学級で働いています。父は、

「世間的に気になる行動は、社会で過ごしている人の気持ちを表しているんだよ。」「受け入れる気持ちや、障がいに対して深い理解があれば、誰も何も気にならない社会になる。」と言っていました。私は二人の話を聞いて、「かわいそう」と思っていた気持ちが間違えていたんだと感じました。

自分が正しい知識を持たないまま、感情で決めつけるのはよくないことがわかりました。ただ、その事に気づけてよかったと思います。怖いと感じたことも、かわいそうだと感じたことも、自分が同じ立場なら相手に思って欲しくないことだと気づきました。自分の考えを違う視点から見ることで、考え方を変えることができたし、身近な人たちはおそらく、「怖い」「かわいそう」という感情も多くあると思います。正しい知識を持った社会になるように一人一人の福祉への興味を持ってほしいと思います。これからもいろいろな物事に対しての正しい知識を持つことの必要性を学んでいきたいです。